

完了報告書（平成 22 年度）

提出者 木村至聖

提出年月日 2011 年 3 月 31 日

【プロジェクト名】

和文 親密圏／公共圏としての炭鉱コミュニティ——産業遺産の表象から

英文 Coal Mining Communities as the Intimate / Public Sphere: From the Representation of Industrial Heritage

【メンバー構成】

研究代表者 木村至聖

幹事 同上

メンバー 井上博登、永吉守、中島満大

【ねらいと目的】（600 字程度）

本研究は、2008 年度の次世代ユニット「移動する家族の生活史——旧産炭地を事例として」、および 2009 年度「炭鉱社会における親密圏の生活戦略」の継続プロジェクトである。

これまで、本プロジェクトは、戦後日本の工業化の流れのなかで形成された炭鉱社会で生活してきた人々の生活史を収集し（2008 年度）、そうした人々の生活実践や戦略を従来の地域社会学や労働社会学の知見のなかに位置づけながら、家族・地域という親密圏という新しい視点から再検討してきた（2009 年度）。

今年度は、こうした工業社会において人工的に形成された親密圏の典型としての炭鉱社会を、現代の視点からいかに評価することができるのかを検討する。とくに、近年注目されている「産業遺産」の表象のなかで、その親密圏にどのような意味が与えられているのかを読み解くことを通して、今日の脱工業化段階にある日本社会の親密圏の特徴を逆照射しようというのが本研究の目的である。

【活動の記録】

研究会・ワークショップの場合は、開催年月日、報告者と報告題等

調査の場合は、調査年月日、調査者、調査地、調査目的等

その他の活動も含めて、研究期間中の活動について簡潔に記してください。

2011 年 1 月 8・9 日 第 4 回炭鉱コミュニティ研究会（於 新宿区戸塚地域センター）

木村、井上、永吉による今年度の研究成果報告

「炭鉱社会における親密圏の生活戦略」木村至聖

「旧産炭地・赤平市の地域再生をめぐって」井上博登

「旧産炭地大牟田・荒尾におけるユンヌンチュ(与論島系住民)のエスニシティー近年の動向から」永吉守

2011 年 2 月 21 日 第 5 回炭鉱コミュニティ研究会（於 京都大学文学部社会学共同研究室）

「赤平調査に関する報告」井上博登

読書会（布施鉄治著作集「調査と社会理論」をめぐって）

【成果の概要】（800字程度）

近年「産業遺産」への注目を通して、炭鉱の集落・社宅などが、地域—企業—家族が親密に結びつき、国家の近代化を下から支えたコミュニティとして解釈されるようになってきている。本プロジェクトは、こうした「親密圏」としての炭鉱集落の再評価を肯定的に受け止める一方で、生活史の聞き取りなどを通してその過度の理想化を排し、そこから産業社会の親密圏／公共圏の理念型とその変容を捉えようと試みてきた。

今年度は、まさにその変容に対して、地域住民をはじめとする当事者たちがいかなる実践を通して立ち向かいつつあるのか、その様々なあり方を描き出すことになった。

井上は住友赤平炭鉱をはじめ様々な規模の炭鉱集落が複層的に存在していた北海道の赤平市を事例として調査した。これまでも、同じ炭鉱集落でも中央財閥系の炭鉱／地場大手企業の炭鉱／中小炭鉱のそれぞれに異なる世界が形成されてきたことが指摘されているが、井上は赤平の事例から、炭鉱閉山時の対応（企業／労働者）がそれぞれの集落ごとに大きく異なっていたことを明らかにした。

木村は昨年度に引き続き長崎市の軍艦島を事例とし、海外の事例との比較も行ないながら、地域内外のポリティクスが産業遺産の整備や保存に与える影響を明らかにした。

また、かつて三池炭鉱があった福岡県大牟田市で、産業遺産の保存・活用を通じたまちづくりの実践に携わってきた永吉は、今年度はとくに三池炭鉱の自治体による観光整備や所有企業保有資産と世界遺産登録との齟齬について調査を実施するとともに、三池炭鉱で歴史的に重要な役割を果たしてきた与論島から長崎県口之津および三池に移住した移民労働者の親密圏について調査を行なった。この調査を通し、国内の一つのエスニック・グループである三池のユンヌンチュ（与論系住民）が、いま自らの文化をいかに表象しつつあるのかを現地の人々の実践に寄り添いつつ明らかにした。

【通信欄】

（研究代表者記入）

プロジェクト	<input type="checkbox"/> 次世代	<input checked="" type="checkbox"/> 次世代ユニット	<input type="checkbox"/> 男女共同参画に資する調査研究
経費	予算額	250（千円）	実績額 250（千円）

様式 2

最終成果報告書（ワーキングペーパー）のホームページ公開に関する許諾書

研究成果タイトル

親密圏／公共圏としての炭鉱コミュニティ——産業遺産の表象から

グローバル COE プログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」に提出する上記の最終研究成果報告書（ワーキングペーパー）の PDF ファイルを同プログラムのホームページに公開することについて、下記のように返答します。

2011 年 3 月 31 日

最終研究成果報告書（ワーキングペーパー）

の執筆者全員のお名前（自署捺印）

木村至聖 井上博登 永吉守

記

- 許諾する。
- 部分的に許諾する。
許諾する部分を具体的にご記入ください。
- 下記の理由により許諾しない。
 - 調査対象者の個人情報保護のため
 - その他 （具体的に理由をご記入ください）